

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和5年3月31日

提出区分	実績	整理番号	16	課題区分	C		
横断的な課題	「地方回帰」の流れを捉えた新たな暮らし方・働き方の提案による移住定住の推進・地域人材の確保						
地域重点政策	4 北アルプス地域を選び、生き生きと活動できる地域づくり					北アルプス地域振興局	
実施機関	北アルプス地域振興局			担当課	所属	企画振興課	
事業名	北アルプスの麓で暮らし・働く大相談会			担当課	電話	0261-23-6501	
					E-mail	kitachi-kikaku@pref.nagano.lg.jp	
事業概要	目的 (目指す姿)	コロナ禍による地方回帰の流れを捉え、北アルプス地域での生活に関心を持つ方をメインターゲットに、北アルプス地域での暮らし方と働き方を合わせてアピールすることで、当地域への人材の移住(確保)につなげる。					
	現状と課題	北アルプス地域内の人口は減少傾向・高齢化が進展し、それにともない介護・福祉をはじめとした各産業で人材が不足している。一方、移住者数は近年増加傾向で推移(移住者捕捉アンケート)しており、この流れを確かなものとして定着させるため、地域の魅力だけでなく、地域で生活するための「仕事」を含めて紹介し、具体的な生活を考えられる移住先として検討してもらえるようアピールする必要がある。					
内容 (変更後の内容)	1 開催時期 令和4年12月18日(日) 13:00~17:00 2 開催場所 東京交通会館 3階 グリーンルーム(東京都千代田区有楽町2丁目10-1) 3 主催/共催 長野県(北アルプス地域振興局)/北アルプス連携自立圏(管内市町村)、認定NPO法人ふるさと回帰支援センター 4 コンテンツ 相談に訪れた方の希望に応じて各ブースで相談に乗る。 <就職・転職> 主に県内で就職・転職等を支援するための職業紹介等を行う会社に依頼 <就農> 北アルプス農業農村支援センター <福祉の仕事> 大町保健福祉事務所、社会福祉協議会 <市町村・地域おこし協力隊> 各市町村移住担当+地域おこし協力隊 <先輩移住者> 北ア地域らしい趣味・仕事(自転車、アウトドア体験、ウィンタースポーツ等)を楽しむ 先輩移住者を招き、ワークライフバランスや田舎暮らしの現実等を織り交ぜながら相談者と話す <北アルプス山麓スイーツ> スイーツプロジェクトの認定スイーツ販売コーナー 5 相談の流れ 総合案内所で受け付け、相談者が希望する相談分野に応じたブースを案内していく。 6 効果検証 相談に訪れた方はリスト化し参加団体と共有する。 後日(3か月後、6か月後)、リストを基に相談に訪れた方が各市町村の個別相談等につながったか確認する。						
	事業期間	令和4年5月 ~ 令和5年3月					
事業費等	(単位:円)						
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画(実績)額	備考			
	北アルプスの麓で暮らし・働く大相談会	首都圏での移住相談イベントの開催	875,579				
	合 計		875,579				
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況		
	相談者数(イベント参加者数)		80人	62人	○ 達成		
	相談者(アンケート回答者数)の満足度(5段階中4以上)		1/2以上	88.5%	● 一部達成		
	イベント後に市町村の個別相談等につながった人数(年度末時点)		10人	11人	○ 未達成		
事業実績・成果	・8月中旬から道の駅等でチラシ配布、HP掲載、関係機関を通じた情報発信等、事前告知を行った。 ・来場者数39組62名。うちアンケートにご協力いただいた方は26組、満足度4以上は23組だった。 ・相談者数は目標値に届かなかったものの、会場内は多くの人で賑わった。全ブースが埋まり、順番待ちが生じたため、待ち時間の対応(待機席の確保、視聴資料の充実等)が次回に向けた課題の一つ。 ・北アルプス山麓スイーツコーナーでスイーツプロジェクト認定スイーツを販売したところ、準備した約100個の品物は完売となった。 ・年度末(開催後3か月)時点で、8組11人がイベント後の継続した相談等につながっている。(来県して個別相談、地域おこし協力隊に応募、移住体験ツアーに参加、移住お試し住宅を利用 など)						
今後の方向性	・来年度も首都圏で開催予定。開催に当たっては、新たなコンテンツ(住宅、山村留学など)を検討する。						